

# 令和6年度 上田市総合教育会議(令和7年3月17日) 議事録

## 1 開会

## 2 土屋市長あいさつ

本日は、教育委員の皆様、教育長にはそれぞれご参加いただきまして感謝申し上げます。

また、日頃から市の教育行政推進のためにご尽力をいただき、重ねて御礼申し上げます。

この協議会は、平成27年の法改正を受け、教育委員会と市長部局が教育の課題やあるべき姿を共有し、市の教育施策を推進する目的で設置され、これまでも様々な教育課題を取り上げ、協議してきました。

本日の会議では、部活動の地域展開とオープンドアスクールという上田市にとっても重要な2つのテーマであり、また内容も多く深く、幅広いテーマであり、限りある時間の中ですが、議論を進めさせていただきたいと思います。

まず、部活動の地域展開につきましては、上田市でも地域クラブ活動推進協議会において議論を進めて取り組んでおります。

昨年度もこの会議の場でテーマとして取り上げましたが、その後、協議が進められておりますので意見交換等させていただきたいと思います。

部活動の改革の主たる目的は、生徒のスポーツそして文化芸術活動に親しむ機会の確保と充実であります。

国では昨年末に部活動改革の名称を、「地域移行」から「地域展開」へと変更いたしました。上田市としてもこの改革の理念を念頭に置きながら、教育委員会と市長部局が共通認識のもと、取り組んでいきたいと考えております。

次にオープンドアスクールについてですが、上田市では4月以降、不登校の子を対象にした学びの多様化学校と、学齢期を過ぎた人が学ぶ夜間中学の機能を併せ持つ、いわゆるオープンドアスクールの設置について検討を進めていく予定であります。

上田市においても不登校の児童生徒や、十分な教育を受けられなかった方の他、市

内で生活する外国人の方々の学びの場を確保していくことが非常に大切であると考えております。

今後の効果的な検討に繋がるよう、一緒に考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

いずれの課題も全国的な課題であります。本日の会議は限られた時間ではありますが、教育委員会と市長部局が現状と課題を共有しながら、今後の方向性について議論し、将来を担う子どもたちが、よりよい環境の場で学べること、そして誰もが生涯を通じて学べる環境作りに向けてそれぞれ進展を図れるよう進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### 3 酒井教育長あいさつ

上田市総合教育会議の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

日頃から土屋市長には、上田市の教育行政発展のために多大なるご支援お力添えをいただきまして心より御礼申し上げます。

さて本日は、部活動の地域展開とオープンドアスクールという2つの大きなテーマについてお話させていただくことになります。

まず部活動の地域展開についてですが、市長からお話があったように、この施策の中心は中学校の部活動を地域に移行するというだけでなく、今まで学校が下支えしていた文化やスポーツの出会いの機会を地域全体でどう作っていくか、文化やスポーツの基盤をどう地域に広げていくか、そんなところにあるかと思えます。

本テーマは、昨年2月にも市長と意見交換の機会をいただいております、前回の会議では、国と県のガイドラインの概要と、上田市の対応状況について説明させていただき、目指すべき地域クラブの姿、想定される課題についてご意見をいただきました。

本日の会議では、昨年10月と12月に開催しました上田市地域クラブ推進協議会での協議内容を踏まえた部活動の地域展開の構想や今後のスケジュールを説明させていただき、市長のお考えをお伺いしながら、教育委員の皆さんと意見交換をお願いしたいと考えております。

次にオープンドアスクールです。信州オープンドアスクールは、不登校の児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程を実施する学びの多様化学校と夜間中学を併せ持つ格好となります。

長野県では、このオープンドアスクールの設置を本年度の新規事業として立ち上げてきております。

上田市では、小中学校における不登校児童生徒は増加傾向にあり、県が実施した夜間中学のニーズ調査でも、他自治体と比較して設置希望が高いということが示されております。

このような状況を踏まえて、教育委員会で協議を進めた結果、このオープンドアスクールは現在上田市が抱えている課題や市民の持つ願いに対応できる一つであり、何よりも多様な学びの機会を提供することになるのではないかと考え、市内の設置を検討することとなりました。

本日の会議では、国や県の動向や信州オープンドアスクールの概要、設置検討に向けたスケジュールなどを説明させていただき、市長のお考えをお聞きしながら、教育委員の皆さんと意見交換をお願いしたいと考えております。

本日の2つのテーマはいずれも新たな事業で、とても大きな課題かと思えます。

それぞれがより効果的な体制の構築に繋げることができればと思っております。

本日はどうかよろしく願いいたします。

## 4 会議事項

### (1) 部活動の地域展開について

#### ●土屋市長

地域展開については、これまでも推進協議会等で進めているが、その中でどのように一つ一つの課題を解決していくかが大事であり、それについて皆さんと一緒に話し合いたい。

まず、資料について事務局から説明をお願いしたい。

#### ●学校教育課長

資料Ⅰ及び別紙により説明

## ●土屋市長

部活動の地域展開については、様々な体制が考えられるが、指導者や活動場所をどう確保するか、移動などの保護者負担をどうするかといった課題があると思う。

皆様から、ご意見、ご要望あるいは質問等あればお話しいただきたい。

## ●教育委員

部活動の地域展開について、自分の仕事の関係でも小学生や保護者の方と接する機会が多く、また休日もスポーツ少年団で野球の指導をしている中で声を聞いていると、やはり小学生の子どもや、その保護者の方々は非常に不安を抱えているという現状がある。

いろいろな不安要素はあるが、今まで 50 年以上この部活動というシステムが日本に定着してきた中で、今回の地域展開は教育現場の大改革だと感じている。

この地域展開は、教育だけの問題ではなく、地域全体で子どもを育てる、支えていくということがベースにあるのではないかと。

上田市でも、「こどもまんなか応援サポーター宣言」をしており、市として子どもを中心に、子どもを支えていきたいと思いますという方針を出しているため、意識転換がとても大きいことになっていくのではないかと感じている。

その中で、一番気になっているのは、指導者に関係する部分である。やはり子どもに対しての関わり方といった部分は、学校の先生はプロである。これが地域の指導者に移っていくときに、どうしてもそのレベルがきちんと担保できない状態になるのではないかと感じており、指導者をどう育成していくかという課題がある。

また、その指導者に対する手当のようなものも、今まで学校の先生がほぼボランティアでやっていた中で、地域展開後は、地域のボランティアに頼るというような意識は違うのではないかと感じており、指導者に対してしっかりとした手当を担保して育成していくというシステムを作ることが重要ではないかと感じている。

## ●土屋市長

各学校や保護者へ説明をするといったことで不安は取り除かれるか。

## ●教育委員

不安の声として具体的に聞くのは、やはり今の6年生あたりは、最終学年になるときにどうなっていくのだろうということであり、そのシステム自体が今後どうなっていくのかというのがまず一つ。

また、移動手段に関して不安を感じている方や、活動時間について、あまり夜遅くにはさせたくないという意見や、夜遅くなるのであればそれまでの時間は子どもたちはどこでどうするのかといった不安の声も聞いている。

### ●教育委員

人数が多いところは転換型でスタートしてみればよいと考える。少ないところはすでに一つの学校では部活動チームで出られず、二つ三つの中学校が連携して合同チームで出ていることを考えると、転換型と展開型が上田市の中学校の生徒数や状況によって並行して進めることが想定されるのではないか。

指導者の育成について、子供の成長段階に応じてどのような指導をしたらいいのかというところの知識も踏まえて指導者を育成していかなければならないと思う。

送迎について、夫婦共働きも多いことから考えると、親が送迎をすべて行うというのは、なかなか難しいので、展開型のように二つ三つの中学校が一つのクラブとして行うとすると、親の負担のない移動手段も考えていただきたい。

また、運動部だけでなく文化系のクラブも大事であり、吹奏楽は中学校に行かないと楽器はないし、家庭科や科学クラブのようなものであればやりたいという子どもたちの希望をどのように保障するかという点も大事だと思う。その子に合ったものを提供していけるというところを学校の開放も含めて考えていく必要があると感じている。

### ●土屋市長

文化系の指導者はどう想定しているか。(事務局に)

### ●学校教育課長

先ほどの説明で、運動系を中心に様々な表をお示しさせていただいたが、文化系については全く手つかずの状況である。

中学生が参加できる活動場所というものが現状ないため、指導者関係含めて、現在、

中学校の先生方のご意見をいただいているが、場合によってはその先生方が中心になって立ち上げていただく事も考えなければならないと思っている。

指導者も練習会場等も含めて大きな課題であるが、先進的に進めている他市では、音楽の先生を中心に組織を立ち上げたという報告を受けているので、そのような形も一つ繋げていかなければならないと考えている。

## ●教育委員

部活動の地域展開にいよいよ移ってきているため、具体的な議論がなされていく時期に来ていると思うが、元々を考えると、やはり子どもたちが自主的に活動を進めることによる教育効果が高いというところで今まで続いてきたし、保護者も子どもたちがそこまで夢中になってやるのであれば応援したいというところで、週末が部活の送迎で潰れたとしてもやってあげているというような現状があると思う。

そういった子どもたちのやりたいという思いはとても大事にしてあげたいと思っており、上田市の展開計画の中で掲げられている『中学生のやってみたいを地域で紡ぐ』というスローガンは本当にいいと思う。これを大事にしていてもらいたいと思っている。

具体的にどうしていくかという議論が始まっているところで、やはり保護者や子どもたちが中学に入ってから部活はどうなっているのかがなかなか見えないというところでの不安はあると思う。これから、例えば移動はどうするのか、クラブ化に向けてどこが主体となるのか、指導者はどなたにお願いするのかといったようなことが具体的に決まっていく中で、どれだけ当事者となる子どもたちに不利益を被らないようにしてあげられるかということも併せて考えていただきたい。

指導者について、地域の方が携わっていただくようになった場合のデメリットとしては、外からどういった活動が行われているのかが見えづらくなる可能性があるのではないかと考えている。指導者の方の指導が適切かどうかということや子どもたちの自主性が尊重されているかというところがきちんと監督できていくような形になっていけるのかなと思う。

先生などの限られた指導者ではなく、多くの方々が関わっていただく中で、子どもたちが自分のやりたいことを伸び伸びできるというところを考えれば、クラブ活動の展開というのは良いことの方が多いという考えで、これから進めていただきたい。

## ●教育委員

部活には、同じ目的に向かって自分たちの力に合わせた到達点、それが日々変わりながら、スモールステップで1個1個進んでいく良さがある。それはもう一つの議題である学びの多様化の学校にも繋がる場所があると思うが、そういう意味で部活の果たしてきた役割は多いと思う。スポーツや文化の裾野を広げる働きをしていたのではないかと考えている。

学校の中で見たときに、「ありがとう」とか「はい」ということが自分で十分感じている、なかなか言葉として相手に伝えることが苦手な中学生、要するに思春期の子どもたちが、同じ目標・目的に向かって先生と友達と一緒に汗を流してぶつかり合うことによって、何かを乗り越えてきた部分がとても多いのではないかと、その働きは子どもにとっても学校にとっても大きいと感じている。

トップアスリートやトップの演奏家を目指している子どもたちは、ある意味どこへでも道は繋がっていくと思うが、その入口に立とうとしている子どもたち、ちょっとやってみたいなというような子どもたちをどれだけそこに巻き込んでいけるか。実はその子どもたちが一番文化の幅を広げてきた人たちじゃないかと考えている。この点も、学校から地域に移行するという中で考えていければと思う。自分はいまうまくないし、経験もないがやってみたいと思う子どもの後ろを押しあげられれば良いなということを感じている。

令和9年度からは学校部活はなくなって地域展開になるということだが、課題は山積だと思う。どれだけやってみたいと思う子どもの受け皿を並べられるか。子どもと一緒に作っていきけるかというところが大きな課題だと思っているが、他に会場のこと、指導者のこと、費用の問題などたくさんあると思う。

とても大きな影響があることも確かだと思うが、今まで経験してきたものがなくなることによって困るというだけではなく、逆にそこからまた新しい学校像だとか新しい部活動みたいなものを作り上げていくことの良さも一緒に考えていけたらいいのではないかと最近も思っている。

## ●土屋市長

受け皿はどのように作っていくのか。(事務局に)

## ●学校教育課長

中学校部活動で比較的部員数が多いところについては、1ヶ所で全て受け入れるというのは難しいため、ある程度のまとまりを作っていく必要があると思う。また、学校部活動にない競技等であれば市で一つ作っていくなど、競技によって受け皿の考え方は変わってくるというイメージでいる。

例えば、スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型のスポーツクラブがあるが、そこに運営をお願いするのは難しいかなと思っているため、今考えているのは、それぞれの競技団体が競技ごとに協会と相談しながら団体を作っていくというのが現実的ではないかと考えるが、その辺りについては今後相談をさせていただきたい。

## ●教育委員

例えば理科の分野でいうと、石ころが好きな子というのはあちこちに必ずいる。その子たちがクラブみたいなものを作りたいと言ったときに、今でしたら創造館で子どものクラブが月1回ぐらいでやっているが、そういうものが発展していくことができるのか。希望する人数の少ない活動の受け皿が社会の中にはないのかなと思う。

子どもは友達と一緒に活動を広げていく部分も結構あると思うので、部活ではなくどちらかというクラブ的な発想かもしれないが、そういった子どもをうまく活動に取り込み、自分の思いを追求することができ、これからの上田を、日本を少しでも明るくしていってくれれば良いなと思っている。

## ●酒井教育長

受け皿のまとまりの部分だが、今は中学校の方でも動いてくださっており、合同部活というような形で、いわゆる移動可能な距離の学校間で一緒になって練習できないかというような形で既に動いているところがあるため、そういうところを母体にしていきながら、市内の中学校をいくつかまとめた一つのエリアのようなものができるといいということイメージしながら行っている。

ただ、そのような形にならなくても、単独で上田市全体でできる競技もあるため、競技人口が多いところは移動が可能であるということ考を考慮し、分担しながらいくつか学校ごとにまとまっている形で調整していただいている。

今お話をお伺いしていて、教育委員の皆様からも、市長からも子どもの思いというの

を受け止める、その上で設計をしていくという考えはとてもありがたく感じている。

令和 8 年度末で部活がなくなるということ、それからもう一点は、競技によってあるいは文化系・スポーツ系の違いによって、スムーズに移行できるところとまだまだ難しいところとあるため、時差をつけながら、最終的には令和 13 年度末に完全に移行していくような大きな流れで考えていければと思っている。

先ほど話題になっていた育成する団体について、具体的にどこに願うのかというのは難しいが、子どもたちの思いを考えたときに、強化の部分と、育成の部分と普及という部分の三つの形の指導者が備えられる機関というのは、上田市の中でいろいろと各競技団体やスポーツ協会しかない、そこから指導者を派遣していただけるような事も考えていかなければいけないのかなということ動いている。

その反面、文化系は強化・育成・普及という指導する組織を持っている団体が、市内にはなかなかないため、立ち上げる場所から始めていかなければならないので、一律にはできないのかなと感じている。

また、この令和 7 年度、8 年度にかけてそれぞれの部分がどのような形で進めていくのかということ具体的に引き続き考えていければと思っている。

## ●土屋市長

既存のクラブ活動の洗い出しが必要だと思うが、そういった作業は推進協議会の専門部会で行うのか。(事務局に)

## ●学校教育課長

この地域にどのような活動先があるのかという洗い出し、拾い出しは専門部会で進めていきたいと思う。市長部局と教育委員会で、中学生が今どのような活動をしているのか、市内にどのような場所があるのかという部分を全て把握するということを進めていきながら、そういう場所を紹介していくことが必要ではないかと思っているため、まずは拾い出し調査を必ずしなければならないと思っている。

## ●教育委員

スポーツ団体にしても、芸術的な団体にしても、スポーツ推進課が市長部局に移ったこともあり、今は直接的に教育委員会とは離れている部分もある中で、やはり全市的

な取組として力を合わせなければうまくいかないと感じた。

これまで、国の方向性を見ていたような部分もあったが、ここからはスピード感を持って力を注いでいかないと、予定している時期にも間に合わなくなってしまうたり、余計に生徒や保護者に不安を与える要素になってしまうのかなというふう感じた。

### ●土屋市長

教育委員の皆さんからもあったとおり、市全体で取り組まなければいけない課題だと思っている。部活動というと学校だが、地域クラブ活動は地域と学校等の行政も一緒になってやるべきことが大きく変わってくるため、市長部局も教育委員会の皆様と一緒に、どのような課題があり、どのように解決していくか、その先はどのように進めていったらいいかというあたりはこれから引き続き連携していかなければならないと思っている。また、スピード感を持ってやらなければならないと感じた。

地域の皆様、あるいは学校の保護者の皆様にも分かっていたら、少しは不安も解消されるかと思うが、また事務局でも適正な PR をお願いしたい。

## (2) オープンドアスクールについて

### ●土屋市長

オープンドアスクールもこれから展開していく上での大きなテーマである。

県内あるいは上田市内でも不登校の児童数が増加しているということで、これまでも課題の一つであったが、大変大きな課題の一つだと考えている。

オープンドアスクールの設置について、4月以降検討を進めるということをお示している中で課題はあるわけだが、この後の事務局からの説明に基づいて、教育委員の皆様と議論を深めていきたい。

### ●学校教育課長

資料 2 及び資料 3 により説明

## ●土屋市長

オープンドアスクール設置に向けて、それぞれ想定される課題あるいは検討事項が示されている。

内容についても、学びの多様化学校と夜間中学という二部制の育成のスクール設置に向けて進めており、先ほどの部活動の地域展開と同じように令和9年度の開校を目指すということである。

委員の皆さんから、質問やご意見をいただきたい。

## ●教育委員

今日の朝日新聞に、宇都宮市で自主夜間中学を運営している元小学校の先生の方の投稿が載っていたので、一部読み上げたい。

『自主夜間中学の学習者たちの楽しそうに学ぶ姿、理解できたときの満面の笑みに接すると、これが学ぶことだと改めて思うのです。学ぶことの目標ができ、生きる証になる、本来の学校のあり方は、夜間中学に通う人々の姿を通して見直されていくのではないかと感じています。』

最初、この会議で私が思っていたのが、何か学ぶことができるということについて、よく学校では夕焼けが美しいというお話を授業で扱うが、要するに文字が書けなかったのが、夕焼けは美しいという字が書けるようになったらより一層今まで綺麗だとも思わなかった夕焼けが綺麗に見えるようになる。学ぶことで何かを見つけていくことの大きさのようなものを感じている。

県で示しているオープンドアスクールの形として、本校型、分校型、分教室型というように分かれているが、いずれにしろそこに子どもたちが集まり、今のような学びができる。今の夜間中学の例だが、同じように学校の教室に入ることに少し戸惑っていたり悩んでいた子どもたちが、自分の居場所や学ぶことの楽しさを味わうことができる場所を作ってもらえることは本当にありがたい。その運営主体が今度は上田市になるわけだが、そういった場所ができることはありがたいと思う。

自分の経験だが、教室に入れない子どもと半年ほど机を並べていたことがあり、何をやるわけでもなく、お話をしたりしていた。低学年から学校に来ることができなくて、教室にも入れない子どもだったが、3学期の終業式の日、教室から来る自分のクラスの子どもたちの列に入って、それからは一切私のところには来なかった。

様々な事情があり抱えている問題があるので、そのことに丁寧に付き合ってあげる意

味で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも配置していただけるという県の方針もとてもありがたい。

ぜひ知恵を出し合って乗り越えて、子どもたちに場所を提供できればいいなと思っている。

## ●教育委員

過去の総合教育会議でも取り上げられた不登校の問題で、上田市で学校に行けない子たちが年々増えている。

現場の先生方や周りの大人も、何とか子どもたちが学校に出てきてくれるように、また学びを止めないようにとものすごくご尽力されている姿を見て、どうにかうまくいかないものかとずっと思ってきた中で、やはり学校という枠組みのようなものをもう一度考え直さなければならない時期が来ているのではないか。学びの多様性というところで、子どもたち自体は少なくなっているが、1人1人に寄り添った学びの場の提供のようなことができなければいけないのではないかということ強く思うようになった。

今回、信州オープンスクール開校に向けて検討されていくところで、やはり様々な立場の方が集まり、時間もフレキシブルに使える、また、外国籍の方や、勉強する時期を逸してしまった方々の受け皿として様々な機会を提供できるという点で、すごくありがたいことだなと思っている。

先ほど不登校の子たちのことについて申し上げたが、外国籍の子たちも上田市には結構多いという印象を持っており、最近だとコロナ禍が終わって上田市で働きに来ている外国籍の方々も多くなっていると思っている。学校訪問等で先生方とお話しているときに、例えば菅平の方なんかではやはり外国人の就労者が増えていて、そのお子さんが学校に行くときに、日本語がままならないまま既存の小中学校に行って先生方が何とか学びができるようにと努力されているというような現状もあるので、そういった方々が当然のようにオープンスクールで学んでいただけるような状況を作ればいいなと思う。

開設にあたっては、そういった外国籍の成人の方や子どもの方がいることと学び直しの方がいること、あと不登校の子たちが行けるという三つの特色があると思うが、それに加えて上田ならではの特色や魅力がある学校をいかにして作れるかというのが一番の課題だと思う。どれだけ魅力的な学校を作っていけるのかということを大切に検討していただきたいと思う。

外国籍の方や不登校の子たちというのは、学校へ行くことに不安を抱えており、一般

の方々よりも少しハードルが高いと思うので、そのハードルをいかに下げてあげられるかといったところも考えていただきたいと思う。

## ●教育委員

子どもと対等に向き合ってくれる大人がいるということが、子どもにとって大きな経験で、それによって自分の中で意見がまとめられて形成され、意見を表明できることから自己肯定感が育成されていく。この信州オープンダスクールは、不登校の子どもだけでなく、外国籍で家族が帯同してきて暮らしている方たちのお子さんが上田に定着して、少子化で人不足の中で、一市民として働いて成長していけるという場を提供できることはとても大きい。できれば上田市は教福連携、教育と福祉が連携できる学校にしていきたいと思う。

上田の暮らしやすさというところから外国籍の人も上田の工場で働いていたり、介護現場にも外国籍の人が入ってきている。その人たちが家族を呼び寄せ、定着していくことを考えると、学校で学びながら上田の文化、日本の文化に触れることで、この地で定着できるような生活支援も含めた学校であるというのが一つの特徴として考えられると思う。

県の会議でも NPO やフリースクールと協働するということを言っているので、例えばフリースクールに通っている不登校の子どもたちも認めながら、NPO で外国籍の人たちの日本語教育や生活支援をしている人たちと連携をしていくということも大事である。例えば、スクールソーシャルワーカーや福祉担当者等を通して、この家庭は生活に困っているとか、様々な制度を知らなくて利用できていないという家庭に対して、生活を支える福祉制度等について夜間でも相談できる窓口を月 1 回でも開設して繋げていくということができると違うと思う。

そのために、できれば社協等が把握している様々な社会資源とネットワークを繋げていきながら、子どもたちがこのオープンダスクールで学んで、例えばその後に通信制の高校等に進学して学ぶ等、社会に出て活躍できるという希望を持てるような体制・ネットワークを作っていくことができると思う。特色ある教福連携を上田市から発信できるオープンダスクールになったらよいと思う。

上田の暮らしやすさや教福連携の支援等を PR すれば、もしかしたら他市町村からも上田に移動してきて、上田で暮らしたいと思う人たちも出てくるかもしれないと思う。

また、アンケート調査結果を見ると、車で登校するという人の他に、電車・バスの利用者も結構多くいるため、駅から歩いてでも行ける場所に学校を設置することも生徒にと

っては大それだと思ふ。

長野県も、2024 年度から社会的養護下にいる子どもたちに、子どもの側に立って、子どもの意見を形成して表明できるよう支援員を派遣するという「こどもの意見表明等支援事業」が始まっている。しかし、本来は学校の中で子どもの意見を聞く大人、それが先生であったり、養護の先生であったりというだけでなく、例えば菅平中学校に入っている地域のボランティアさんのように、子どもに関わる大人がたくさんいて、自分の意見は叶うかどうかわからないが、ちゃんと聞いてくれるという経験が子どもにとって重要である。このように子どもの権利を守ることもう少し定着してほしい。特にこのオープンドアスクールに来る人たちは、様々な経験をして課題も抱えている中で、意見も聞いて使える支援に繋げていってくれるところがあることは大きな力になるのではないかなと思ふ。

### ●学校教育課長

やはり学校はある意味学びの場ではあるが、やはりここに帰ってくる子どもたちの卒業後の支援というものも含めて、そのようにネットワークを作っていくということが大事。そういう意味ではスクールソーシャルワーカーを入れたりしながら、その方の支援がこの学校のオープンドアスクールをきっかけに作っていけるような仕組み作りができればいいのかなと思ふ。

規模に関しては設置検討会議で決定していきたいと思ふが、全国的な学校を見ると、1 学年の定員がそれぞれの学校で 10 名程度というところが一般的であり、教員の配置等も考えていくと、上田市としても 1 学年 10 人で、夜間中学 10 人、学びの多様化 10 人というような、それぞれ 10 人程度の定員が現実的ではないかなと考えているが、今後、検討する中で決定していく。

### ●教育委員

信州オープンドアスクールに対して、非常に期待を込めている部分と、希望を感じている部分がある。私も不登校の子どもを支援したりしているが、どのお子さんも、またどの親御さんも学校に行けていないということに対して負い目や後ろめたさのようなものを感じている。実際にふれあい教室やその他フリースクール的な施設に通っている人たちも、人目につかない時間帯に移動するなど、そういったことを意識されている方が多いのが実情ではないかなと思ふ。

そういった中で今回のオープンドアスクールは、お子さんたちも堂々と通ってくれる明るいイメージの学校、そういったものを作っていただきたい。

少子化で子ども側のニーズがどんどん減ってきている中で、どの子にも最大限の力を引き出してあげて、その子たちが将来活躍していける場を教育の現場に作っていかなければならないと思っている。

自己肯定感が低くなっているような子どもたちに、自分が社会の一員であるとか、社会に貢献できるといった気持ちを醸成していくことが大事だし、それは外国籍の人たちも同じではないかと思う。

学びの多様化というのは、全てに必要なことだと私は思っているが、現状の学校ではいろいろな要因の中で学びの対応が難しいところがあると思う。そういった中で、上田で作る信州オープンドアスクールが希望になる。全国でこれから広がっていく際の参考になったり、一つの指針を示せるようなものになれば本当に嬉しいなと感じている。

一番の課題としては、やはり教職員の問題かなと思っている。先ほど定員の話があったが、このスクール一つできたから、上田市で今、学校に行けていない子がみんな来られるかというところではない問題もある。

教職員に関しては県の問題でもあるので、県の協力も大いにいただかなくてはいけないし、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった役割の人たちは、オープンドアスクールにも強化していかなければならないと思う。

また、全市的にもそういった資格の人をどんどん増やせるような仕組みを市としても考えていただきたいと感じていて、そういった仕組みが広がっていくことで不登校の子たちも、全体として減らしていけるような方策もできるのかなと感じている。

基準として決められている教職員の数というのはあるが、本当にそれだけで足りるのかなというところを含めて、上田市全体として子どもに関わる役割の人たちを増やすような方向性でやっていただけるとありがたいと感じている。

## ●土屋市長

教職員について、県の方ではどのように配置してくれるか。(事務局に)

## ●学校教育課長

分校型にすると県の方から 9 名。分校型にした場合が県の教員の配置が一番手厚

ということもありますので、最終的には設置検討会議で決めますが、今の段階では分校型を目指していきたいと考えている。ただ、これだけでは当然足りない部分については市費で任用するか、民間連携を図っていくということが必要だと考えている。

例えば、夜間中学でいろいろな言語を使う方がいらっしゃった場合、上田市の多文化共生推進協会等と連携する中で通訳の方の派遣等ができないかというようなことを考えている。また、卒業後の支援等について、若者サポートステーション等との連携がとれないかというようなことも考えられる。

### ●酒井教育長

教育委員の皆様から本当に熱い思い、夢のあるお話をいただいてすごく心強く感じている。

資料2の裏面一番下の『上田市の状況』の不登校のところを見ていただくと、令和5年度、中学校は令和4年度と比べると30日以上お休みの子が8名減り、そのうち90日以上欠席している子が18名減ったような状態が出ている。つまり、本来であれば90日以上休んでしまうようなお子さんが令和5年度については10名、30日以内で収まるようになったという結果が出てきているのかなと思う。

この令和5年度というのが、市内で5校ぐらいが、学校の中で来る時間を自分が設定して、今日1日どの授業を出て、どこで何をするのかというのを先生が横に寄り添いながら計画を立てる時間を設けるのが大きな特色である校内フリースクールの実践が始まった頃であり、その成果がこの数字にあらわれてきているのかなと思っている。

オープンドアスクールが開校したときに、不登校の子どもたちのうちの何人かが選択できるような学校になればいいなと感じている。

また、外国籍の方でいくと上田市は30代から50代の女性の方がとても多いというお話を伺った。ちょうど学齢のお子さんを抱えている女性の方が働きに来ていて、お子さんを預ける場所がない、学べる場所がないということで、市内の小中学校に分散するように日本語が話せないお子さんたちが入っている状態が続いている。

夜間中学で直接的な対策が打てる訳ではないが、日本語を学べるという部分で何か解決の一步が見えればいいなと思う。

いずれにしても令和9年度開校ということになると、大変忙しい中で進めることになってくるので、上田市の子どもたちの実態を見ながら、設置検討会議の中で、上田市のニーズに沿った環境作りをできればいいなと思っている。

市長にもいろいろお力をお借りしたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

## ●土屋市長

校内フリースクールの対応をしている先生は、どのように確保しているのか。

## ●酒井教育長

県で加配されている学校もあるが、それは 1 年限りというものである。加配がない状態で先生たちの空き時間を工夫して対応していただくが、その先生があまり代わると子どもたちは話ができなくなってしまうので、対応する先生を固定して、その先生が持っている他の授業を、空いている先生たちが代わりに見ていくというように、各学校でかなりの工夫をしていただいている。

## ●土屋市長

皆様からご意見等お話をいただきありがとうございます。

スケジュールの中でも、設置検討会議を設置して、令和 7 年度の 4 月からどんどんスタートしていく。その中でいろいろと課題も出てくると思うが、教育委員会と市長部局で共有しながら進めていかなければと思う。

先ほど、卒業した後の支援についても意見が出たが、様々なことを想定して弾力的に対応をしなければいけないと思う。

いずれにしても、学びたいという気持ちを持っている子どもたちはいるので、そこに対応する意味でもオープンアスクールの、令和 9 年 4 月の開校に向けて進めていきたいと思っているのでよろしくお願いいたします。

今日の議題については、中学校部活動の地域展開についての情報共有、またオープンアスクールの開校に向けてご意見いただいた。それぞれ教育委員会、特に学校教育課が担うということであるが、引き続きよろしくお願いいたします。

本日は、それぞれ教育委員の皆様にはご参加いただき感謝申し上げます。

## 5 その他

### ●政策企画課長

来年度の総合教育会議について、例年実施している本日のような意見交換の他に、

上田市教育大綱及び上田市教育支援プランの改定時期にあたることから、年 3 回の開催を予定している。ご負担をおかけするが、詳細について改めてご案内するのでよろしくをお願いしたい。

## 6 閉会